

ま、で KOSO!

過去の記事は
こちら

社会を否定的に見る青年

良いことしたら報われる?

みなさんは、自分がどんな社会に生きていると感じているでしょうか? 大学生を中心にした青年が「自分が生きている社会をどのようにとらえているのか」を研究しています。2009年から続けた調査の結果、学生は時代を問わず、日本社会を否定的にとらえる傾向があることがわかりました。

大学生は社会の何を否定的にとらえているのでしょうか。調べてみると、政治家、街頭インタビューに答える人、交流サイト(SNS)上で意見を交わす人といったニュースやSNSで

知る人々、それにマスメディアに対して「自己中心的だ」「他人に冷たい」「何か問題があった人を一斉に攻撃する」「一面的で偏っている」などととらえています。さらに、2020年ごろからは「LGBTの人や外国人が優遇されすぎている」「頑張っている人が多くの税金をとられるのはおかしい」といった不公平感を抱く学生が増えつつあります。

このような社会の見方に関する心理学用語に、「公正世界信念」があります。「世界は公正で、良いことをした人は報われ、悪いことをした人は罰を受ける」ととらえる信念です。公正世界信念をもっていると、信

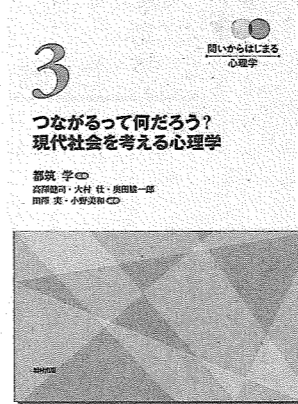
念に合わない現象に遭遇したとき、「自分は頑張っているのに報われず、頑張っていないの方が優遇されているのはずるい」などと不公平感を抱きやすくなります。

いつの時代でも誰もが抱くような気持ちですが、近年は外国人や性的マイノリティー、障害者らに不公平感を抱く人が増えている点が特徴的です。その背景には、学校教育などにおける「多様性の尊重」の強調と、日



峰尾菜生子さん

本の経済状況の悪化の重なりがあると考えられます。現在の社会では、さまざまなマイノリティーと関わる機会が増え、配慮を求められるようになっていっています。高い学費や物価高などで苦しい生活を強いられている学生にとっては、マイノリティーは



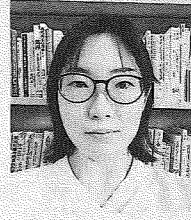
かりが尊重されていて不公平だと、感じやすくなっているのでしょう。

このような感覚を軽減するには、不利な立場に置かれてきた

共著「つながるって何だろう? 現代社会を考える心理学(問いからはじまる心理学 第3巻)」(福村出版、2022年)

人々の実態や歴史、社会の構造をきちんと伝える教育が必要です。同時に、一人一人が尊重され、頑張ろうが頑張らなかつても生きていていいんだと実感できるように、親や教員など周りの大人たちが声かけをしていくことが大事になります。青年が社会をどのようにとらえて、どんな感情を抱いているかを知らずに、「社会に関心をもて」などと言っても響きません。まずは声を聞くことが重要です。

みねお・なおこ 岐阜大
地域科学部地域文化学科助
教。専門は
発達心理
学。中央大
大学院修
了。博士
(心理学)。
1984年生
まれ。



外国人や障害者に不公平感抱きやすく